

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
ふれあい チャレンジ きらりかがやく 三里の子の育成	(1) 確かな学力の定着と指導力の向上 (2) 人間性豊かな心の育成 (3) たくましい体の育成

3 目標・評価

① 確かな学力の定着と指導力の向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	基本的な学習習慣・態度の定着	基本的な生活習慣と学習習慣の定着を図り、自主的な学習を充実させるために学習規律を身につけさせる。	・児童の学習習慣の意識化のために、「家庭学習十ヶ条」「自習学習のポイント」を各家庭に配布し、学級便りや懇談会等で保護者への啓発を図る。 ・スキルタイムを継続して実施し、読む・書く・話す・聞く学習活動での基本の定着を図る。
		確かな授業力の向上、専門性を高める研修	確かな学力を身に付けさせるために「分かる授業」づくりを行う。	・校内研究で、年4回の研究授業を行い、学習過程や取組の共通化を確認する。 ・自分の考えを持つ時間とともに、考えを発表し学び合う時間を確保する。 ・理解したことの定着を図るための時間を学習時間内に確保する。
	●ICT活用教育の推進	ICTを積極的に活用した授業の実施	電子黒板やタブレットPCなどICTを積極的に活用した授業を構築し、児童の関心意欲と思考力を高める。	・各教科において、電子黒板やタブレットPCの有効な活用方法を研究し、授業で用いる。 ・ICTを利用した学習の推進に関する職員研修を行う。

② 人間性豊かな心の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	読書活動の推進	読書習慣の定着と読書好きな児童を目指し、全児童の100冊読破を目指す。	・3月末までに全児童の100冊読破を目指す。 ・貸出時における個人貸出冊数の意識付けを行う。 ・各学級で週に一度は図書館に行く機会をつくり、読書を促す。 ・「とよかんだより」で学年別貸出数を公表する。
		礼儀・あいさつ	時と場所に応じた正しい言葉づかいができる児童を育成する。	・今年度の生活目標に「正しい言葉づかい」「あかるいあいさつ」を掲げ、学年に応じた取り組みを通し、丁寧な言葉づかいや明るいあいさつができるようにしていく。 ・友達を呼ぶ時に「さん」や「くん」を付けて呼ぶことができるようにする。
	●いじめ問題への対応	いじめゼロ	子どもの心の状態を常に把握し、いじめにつながる言動を見逃さない。	・月に1回心のアンケートを行い、子どもたち一人一人の心の状態を把握すると共に、気になる子への声かけを多くし、かかわりを深める。 ・三里小いじめゼロ宣言を児童に示し、子どもの「いじめに対する危機意識」を高める。 ・年2回のQUTテストを児童理解を深める手立てとして活用し、学級づくりに生かす。

③ たくましい体の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	児童の主体的・健康的な生活習慣の確立	健康的な生活に必要な知識を習得させ、自分の生活を見つめ直し、改善する力を向上させる。	・健康的な生活習慣を身につけるよう、月の生活目標にあげて全校的に取り組んだり、「ほけんだより」を発行し家庭と連携を図ったりする。 ・週1回のエチケット調べと学期1回のエチケット調べ強化週間を設け、重点的に取り組む。 ・家庭教育指針に学期2回ずつ取り組み、結果をただちに公表し、健康的な生活習慣の定着を図る。
		食育の推進	よりよい食事のあり方を理解し実践するとともに食を通して感謝の心をもてる児童の育成を目指す。	・月別給食指導目標を掲示、各月の担当者がなかよしタイムの時に全体指導を行う。 ・食事のマナーとして箸の持ち方や姿勢などの掲示物を作成し指導する。 ・給食センターの栄養教諭を招いて、食について学ぶ機会を設定する。(学級指導、なかよしタイム等) ・児童一人一人が、それぞれの食べきれる量を完食することで、できるだけ残食が出ないようにする。
	○体験活動の推進	体験活動を通じた実践力の育成	総合的な時間や三里ふれあい自然塾等での体験活動の実践と見直しを行い、活動の充実を図る。	・自然体験、農業体験、ボランティア体験の目的を児童に理解させ、計画的に取り組む。 ・振り返りカードを作成し、縦割り班活動、三里ふれあい自然塾などの活動に活用する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	学校教育目標及び経営方針、重点的な取り組みの周知	学校教育目標とその重点取り組みを保護者や地域、児童へ積極的に周知し、学校の取り組みについての理解度80%以上を目指す。	・目標の目指すところや達成状況について、授業参観、育友会総会、学校説明会等で具体的に説明し、理解してもらう。 ・学校便りや毎月1回以上触れることで周知を徹底する。
	○教職員の資質向上	教職員の資質向上 勤務規律の保持	教職員として自分の課題を見つけて、積極的に研修会等に参加し、資質向上を図る。	・全員が教育センター研修講座に1回以上参加する。 ・長期休業を中心に、各種講座・講演会や研究発表会の案内を回覧し、積極的な参加を呼び掛ける。
	○開かれた学校づくり	保護者や地域に信頼される学校づくり	学校情報を積極的に発信するとともに保護者や地域の声を学校教育へ反映する。	・学校便りを月2回以上発行し、学校HPも更新分担を決め月2回以上の更新をする。 ・保護者や地域の学校教育に対する様々な声をアンケート等で集め、それを学校教育へ適切に反映させることで地域の中の学校づくりを進める。
		保護者・地域との連携 地域の生活文化の拠点となる学校づくり	保護者・地域、一人一人との情報交換をより密にして、連携を深める。	・学校を地域の生活文化の拠点とするため、学校行事や育友会行事等について、機会をとらえて積極的にまた早めに学校から情報発信する。 ・三里小サポーター隊への参加の呼びかけを行う。 ・行事毎に実施していたアンケートの内容や方法を検討・改善し、結果を反映させやすくする。
特定課題	●低学年の学習環境の改善充実	基本的な生活習慣・学習習慣の育成	先生や友達の話を最後まで聞くことができるようにする。	・「話しての方を見る」「最後まで聞く」「受け言葉を言う」などができたら、個別や全体の場で賞賛し、価値づける。 ・話形を提示したり、プリントを配布したりする。